


環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会
(事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成22年 11月26日

オフセット・クレジット(J-VER)プロジェクト登録依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における妥当性確認が終了しましたので、プロジェクト登録を依頼します。

プロジェクト名 ¹			
大阪府株式会社ケーシーシーにおけるボイラー装置の更新による温室効果ガス削減事業			
【依頼者】 プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	株式会社 ケーシーシー(カブシキカイシャケーシーシー)		
住所	大阪市平野区喜連西 4 丁目 7 番 40 号		
代表者氏名	代表取締役 石崎 圭造	代表者役職	リーダー
担当者氏名	田中 喜一郎	担当者 所属部署・役職	淀川製造部
担当者 E-mail	yodogawafactory@kcc-grp.com	担当者電話番号	06-6478-0355
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	株式会社 ケーシーシー		
プロジェクト参加者名	財団法人大阪府みどり公社		
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	株式会社 ケーシーシー		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。		
妥当性確認機関			
妥当性確認機関名	社団法人日本能率協会		

¹ プロジェクト名は、抽象的な表現を避け、「〇〇県△△事業者による□□（排出削減技術）を用いた温室効果ガス排出削減事業」のように、先にプロジェクト実施場所やプロジェクト事業者名を入れる等により、第三者に事業内容が伝わりやすいものとしてください。但し、事業の愛称やキャッチコピーをサブタイトルとしてつけていただくことは可能です。

プロジェクト情報	
プロジェクト概要 ²	<p>(具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p>【プロジェクトの目的・内容】</p> <p>1. 目的 株式会社ケーシーシーでは、積極的に省エネ対策に取り組んでいるが、厳しい経営環境下では設備投資には限界がある。このため、平成 20 年度に実施したボイラー更新プロジェクトをオフセット・クレジットの対象案件とすることにより、更なる省エネ対策を推進し、淀川工場における地球温暖化対策の推進に資する。</p> <p>2. 方法 A重油を使用するボイラーから都市ガスを使用する高効率ボイラーに更新することにより、化石燃料による CO2 排出量の削減を図る。</p> <p>【適格性基準との整合性】</p> <p>条件1 重油産業用ボイラー（750kg/h、2台 三浦 EH-750F、ボイラー効率 85%）から都市ガス貫流ボイラー(1000kg/h、2台 サムソン LES-1000EP、ボイラー効率 96%)に更新。 ボイラー効率が 85%から 96%に代わるので、既存よりも高効率である。 既存ボイラーは更新により撤去するまで正常に稼働し蒸気を工場で使用していたため継続可能な状態であり、故障や老朽化による更新ではない。 更には、導入ボイラーは蒸気発生のみでありコージェネではない。</p> <p>条件2 高効率ボイラー装置の導入と重油から都市ガスへの燃料転換により化石燃料による CO2 排出量を削減。 なお、設備の蒸気発生容量は増加しているが、更新後の蒸気発生熱量は実績から最大 4,000GJ/年と推定され、更新前のボイラーの最大熱供給量は 8,000GJ/年以上であり補正の必要はなし。</p> <p>条件3 ボイラーは蒸気発生に使用し、発生させた蒸気は全て淀川工場のおしぼり洗濯用の連続洗濯機等の洗濯水加熱用に使用している。</p> <p>条件4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CO2 削減量 : 91t CO2/年 ・ <u>燃料節減経費は年間 170 万以上の赤字となり本プロジェクトの採算性はない。</u> ・ ボイラー設置・入替工事費 12,000 千円 (税抜)

² プロジェクト概要は、プロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA/QC 体制等に関することを 2 ページ以内で具体的に記述してください。

・燃料削減費：－1,709 千円/年（実績）

【代替前】

・平成 20 年 11 月から平成 21 年 10 月までの A 重油推計消費量 106.5kL/年（63.29※円/L）

⇒ 6,740 千円/年（106.5kL/年×63.29 円/L）

※石油情報センターHP（小型ローリー納入価格(近畿)、平成 20 年 11 月から平成 21 年 10 月までの 1 年間の平均値）

【代替後】

・都市ガス年間消費量（実測）89.5 千 m³

⇒ 8,448 千円/年（平成 20 年 11 月から平成 21 年 10 月までの 1 年間の支払い実績）

燃料削減費＝6,740 千円/年－8,448 千円/年＝－1,709 千円/年

【法令遵守状況】

該当なし。

【採用技術】

機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考
貫流ボイラー	サムソン	15 年	平成 20 年 10 月 20 日	LES-1000EP 2 台

【モニタリング方法】

都市ガス使用量：都市ガス供給会社管理メータ(検定付き)

【GHG 算定式の方法論への準拠性】

全て準拠する。

【モニタリング体制】

ボイラーの稼働実績等の記録は毎日記録し、担当者が保管管理し、報告書は管理者責任者が認証するとともに第三者機関(財大阪府みどり公社)が年 1 回チェックを行う。

【QA / QC 体制】

工場内での省エネ対策に取り組むとともに、社員の教育・訓練を行い、情報の保管、データの確認やチェックを行い、管理責任者に指名された内部監査員は年に 1 回以上プロジェクトの内部監査を実施する。

プロジェクト実施場所	(プロジェクト実施場所が複数ある場合は、全ての住所を表形式等で記述する。) 大阪市西淀川区千船 1-2-1						
プロジェクト期間	2008年11月1日～2023年10月31日（15年0ヶ月）						
クレジット期間	2008年11月1日～2013年3月31日						
プロジェクト計画開始届提出日	平成22年10月15日						
妥当性確認終了日	平成22年11月25日						
想定削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂ ³	37	90	91	91	91	400
適用モニタリング方法ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (排出削減プロジェクト用) ver.2.3						
適用方法論	方法論番号	E 011 ver.1.1					
	方法論名称	ボイラー装置の更新					
ダブルカウントの防止措置							
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	(プロジェクト代表事業者と同一の場合は記入不要)						印
公的な報告・公表制度(判明している公的制度)	該当なし。						
自主的な報告・公表対象(対象となるホームページ、環境報告書等)	本プロジェクトによりオフセット・クレジット(J-VER)を取得した事業者は、自社の温室効果ガス排出量に係る自主的な報告・公表対象において J-VER の取得状況について明記するとともに、取得した J-VER を他者に引き渡した場合には、自社排出量の削減が行なわれたといった主張は行なわない。						
備考欄							

³ 小数点以下は切り捨てとし、トン単位で記載してください。よって、小数点処理のため、表記上では単年度の削減量・吸収量の合計と、各年度合計量が異なることもあり得ます。

--

以上